

ISSN 1349-2721

人間看護学研究

Journal of Human Nursing Studies

4

2006
June



滋賀県立大学人間看護学部

人間看護学研究

編集委員長 石田 英實
編集委員 松本 行弘
藤井真理子
西田 厚子
伊丹 君和
滝澤 寛子
牧野 耕次
鬼頭 泰子

Journal of Human Nursing Studies

Editor-in-Chief Hidemi Ishida
Editors Yukihiro Matsumoto
Mariko Fujii
Atsuko Nishida
Kimiwa Itami
Hiroko Takizawa
Koji Makino
Yasuko Kito

人間看護学研究 第4号

発行日 2006年6月30日

発行 公立学校法人 滋賀県立大学人間看護学部
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500

電話 0749-28-8631

ファックス 0749-28-9501

印刷所 (有) ひがし印刷

ISSN 1349-2721

School of Human Nursing

The University of Shiga Prefecture

2500 Hassaka, Hikone, Shiga, 522-8533 Japan

tel 0749-28-8631, fax 0749-28-9501

Printed by HIGASHI PRINT

(平成18年5月17日改正)

人間看護学研究投稿規定

1. 趣旨

この規定は、人間看護学研究の発行に必要な事項を定める。

2. 発行

原則として毎年度1回発行する。

3. 投稿者の資格

原則として、滋賀県立大学人間看護学部の教員等が、第一著者あるいは共著者であること。ただし、人間看護学研究編集委員会（以下「編集委員会」という）から依頼された原稿に関してはこの限りではない。また、滋賀県下の関係者については、編集委員会の判断により投稿を認める場合がある。

4. 原稿の種類

(1) 原稿の種類は、下記の通りとする。

原著論文：独創的で、新しい知見や理論が論理的に示されており、論文としての形式が整っているもの。

総説：ある主題に関連した研究・調査論文の総括および解説

研究ノート：内容的に原著論文の域に達していないが、研究結果の意義が大きく、発表の価値があるもの。

活動と資料：看護活動に関する実践報告、調査報告、有用な資料など。

フォーラム：人間看護に関わる海外事情、関連学術集会の報告、および掲載論文に対する意見など。

書評と紹介：内外の人間看護学研究に関係する図書、論文および研究動向について批評、紹介をおこなうもの。

学部広報：人間看護学部の動向や記録事項など。

(2) 原稿の種別は著者が行うが、編集委員会が種別変更を求める場合がある。

5. 原稿の制限事項

(1) 投稿原稿は、国内外を問わず未発表のものに限り、重複投稿は禁止する。

(2) 原稿は刷り上がり（原稿1頁は2400字）で、写真・図表を含めて下記の制限枚数内とする。
 原著・総説・研究ノート：12頁以内
 活動と資料：6頁以内
 他の原稿は2頁以内とするが、学部広報は制限を設けない。

6. 倫理的配慮

人および動物が対象である研究は、倫理的な配慮がさ

れており、原稿中にもその旨が明記されていること。

7. 投稿手続

(1) 原稿を3部（うち2部は複写でも可）を編集委員会に提出する。

(2) 最終修正原稿を提出するときには、本文をワード形式で、図表をワード・エクセル形式で保存したパソコン記憶媒体（FD、CDなど）を添付する。

(3) 提出場所

持ち込みの場合：編集委員会

郵送の場合：封筒の表に「人間看護学研究原稿」と朱書きし、下記に書留郵送する。

〒522-8533 彦根市八坂町2500

滋賀県立大学人間看護学部
人間看護学研究編集委員会

8. 原稿の受付

上記7の投稿手続を経た原稿が、編集委員会に到着した日を受付日とする。なお、受付した原稿等はオリジナルを除いて理由の如何を問わず返却をしない。

9. 原稿の採否

(1) 原稿の採否は査読を経て編集委員会が決定する。

(2) 査読結果により原稿の修正を求められることがあるが、修正を求められた原稿著者は、編集委員会の指定した期日までに内容修正を行い再投稿すること。指定された期日以降に再投稿された場合は、原則として新規受付の取り扱いをする。

10. 著者校正

査読を経て、編集委員会に受理された最終原稿については、著者校正を1回行う。但し、校正時の加筆は原則として認めない。

11. 執筆要領

原稿の執筆要領は別に定める。

12. 著作権

原稿内容についての第一義的責任と権利は著者に帰属するが、原稿の編集・出版および電子情報化など2次的使用に関する権利は、編集委員会が著者から委託されたものとする。

なお、著者が電子情報化を希望しない場合は、投稿時に編集委員会に文書で申し出ることとする。

13. 掲載料・別刷

掲載料は無料とする。但し、特殊な図表等で特別な経費を要した場合には著者負担とする場合がある。別刷は希望者のみとし、費用は著者負担とする。

(平成18年5月17日改正)

原稿執筆要領

1. 原稿構成

- (1) 投稿原稿の構成は原則として以下の通りとする。
抄録：研究の「背景」「目的」「方法」「結果」「結論」にわけて、見出しをつけて記載すること。
(1,000字以内)
キーワード：6個以内
Ⅰ. 緒言：研究の背景・目的
Ⅱ. 研究方法：研究、調査、実験、解析に関する手法の記述および資料・材料の集め方
Ⅲ. 研究結果：研究等の結果・成績
Ⅳ. 考察：結果の考察・評価
Ⅴ. 結語：結論
文献：文献の記載は、2.(9)に従う。
- (2) 表紙上段には、表題（英文併記）、著者氏名（ローマ字氏名併記）、所属機関名（英文併記）、キーワード（英単語併記）、希望する原稿種別を記載する。
- (3) 表紙下段には、本文・図表・写真の枚数、および連絡先（氏名・所属機関名・住所・電話およびファックス番号・E-mailのアドレス）を記載する。
- (4) 原著論文には、英語抄録をつけること。その他の原稿の場合は、英文抄録を省略することができる。
- (5) 英文抄録（Abstract）は、Background・Objective・Method・Results・Conclusions・Key Wordsの構成とし、500語程度とするが、1ページを英文抄録にあてるため、その範囲を超えなければ500語以上を認める。
- (6) 英文原稿の場合は、英文抄録と同様の要領で和文抄録をつけること。

2. 執筆要領

- (1) 原稿は、パーソナルコンピュータで作成する。
- (2) 原稿はA4版横書きで、1頁1200字（40字×30行）になるように作成する。
- (3) 原稿は、原則として、新仮名づかい、当用漢字を使用する。
- (4) 外国語はカタカナで、外国人や日本語訳が定着していない学術用語などは活字体の原綴で記載する。
- (5) 数字は算用数字を用い、単位符号は原則としてSI単位（kg、mg、mm、ml、kcal、℃など）を用いる。
- (6) 国際的な共通語を使用し、一般的に認められている略語以外は説明なしでは使用しないようにする。特定分野でのみ用いられる略号、符号などに関しては、初出時に簡単な説明を加える。

- (7) 図・表および写真は、それぞれ図1、表1などの通し番号をつけ、本文とは別にまとめ、本文原稿右欄外にそれぞれの挿入希望位置を朱書きする。
- (8) 文献は、本文の引用箇所の肩に¹⁾ ²⁾ のように半角上付き番号で示し、本文の最後に引用した番号順に整理して記載する。雑誌略名は邦文誌では医学中央雑誌、欧文誌ではINDEX MEDICUS、INTERNATIONAL NURSING INDEXに従うものとする。
- (9) 文献の記載方法
雑誌の場合：著者名、論文名、雑誌名、巻・号、頁、発行所、発行年の順に記載する。
単行書の場合：著者名、書名、版、引用頁、発行所、発行年の順に記載する。
単行書（分担執筆）の場合：著者名、分担章標題名、編集名、書名、版、頁、発行所、発行年の順に記載する。
訳書の場合：原著者、書名、発行所、発行地、発行年、訳者名、書名、頁、発行所、発行年の順に記載する。

目 次

総 説

看護におけるアドボカシー —文献レビュー— 竹村節子	1
-------------------------------------	---

論 文

精神看護実習において看護学生に生じた involvement の概念分析とその多軸評定の作成 牧野耕次、比嘉勇人、甘佐京子、松本行弘	13
---	----

急性期における統合失調症患者家族アセスメントツールの考案 甘佐京子、比嘉勇人、牧野耕次、松本行弘	23
---	----

看護記録の開示に対する看護者の意識調査 豊田久美子	35
------------------------------------	----

認知症高齢者の自己効力感が高まる過程の分析とその支援 畑野相子、筒井裕子	47
---	----

研究ノート

急性期成人看護学演習において協同学習に基づく説明活動が学生に及ぼすストレスと効果 沖野良枝、米田照美、前川直美、長澤晋吾	63
---	----

自治体定年退職者の退職後の生活と健康の関連に関する実証研究 西田厚子、堀井とよみ、筒井裕子、平英美	75
--	----

活動と資料

オーストラリアにおける倫理委員会の役割と活動 江藤美和子、豊田久美子	87
---	----

フォーラム

平成 17 年度人間看護学部 FD の活動状況 人間看護学部 FD 実行委員会	93
--	----

Contents

Review Articles

Advocacy in Nursing —a review of literature— Setsuko Takemura	1
--	---

Articles

Analysis of the Concept of Involvement Occurring in Nursing Students during a Psychiatric Nursing Care Practicum and the Development of a Multiaxial Assessment for Involvement Koji Makino, Hayato Higa, Kyoko Amasa,	13
Yukihiko Matsumoto	

Creation of Tools for Assessment of Families of Schizophrenia Patients in the Acute Phase Kyoko Amasa, Hayato Higa, Koji Makino,	23
Yukihiko Matsumoto	

The Study on Nurses' Awareness of the Release of their Records Kumiko Toyoda	35
---	----

Analysis and Support of the Process for Increasing the Self-Efficacy of Elderly Dementia Patients Aiko Hatano, Sachiko Tsutsui	47
---	----

Notes

Psychological and Physical Stresses and Effect of Cooperative Learning and Self-explanation to the Student Nurses in Acute Care Exercise of Adult Nursing Yoshie Okino, Terumi Yoneda, Naomi Maegawa,	63
Shingo Nagasawa	

Evidential Study about the Relation between the Life and the Health of Local Government Official Retirees Atsuko Nishida, Toyomi Horii, Sachiko Tsutsui,	75
Hidemi Taira	

Report & Material

The Roles and Activities of Ethics Committees in Australia Miwako Eto, Kumiko Toyoda	87
---	----

Forum

Activities of Faculty Development (FD), School of Human Nursing in 2006 Committee of Faculty Development	93
---	----